

下郷町青少年育成町民会議だより

町青少年主張発表～前号からのつづき



旭田っ子クラブ指導員が企画し初めて開催された「3B 体操教室」(H25.9.27)参加した子どもたちが楽しく活動していました。今年も一年、本町の子どもたちが健やかに過ごせますように。

## 新任並びに新年のごあいさつ

町青少年育成町民会議  
新会長 白石 光史



明けましておめでとうございます。本年も青少年育成町民会議にご理解とご支援をお願い申し上げます。

子供の成長過程において、一番大切な基盤となるのは、それぞれの家庭です。生命を授かって最初に接する社会が家庭であり、家族との触れ合いにより五感が発達し、心が育つのです。子供達は初めから、好奇心や向学心、優しさや強さを持って生まれて来る訳ではありません。家族との触れ合いにより生まれ数ヶ月で様々な事を覚え、無限の好奇心に突き動かされ行動する様になります。まずその数ヶ月間は、理屈抜きの愛情を注ぐ事が大切です。好奇心旺盛な子どもに育つ事が何よりだと思います。次に、その好奇心による子供の行動に、周囲がどの様に対処するかが問題です。子供と家族との触れ合い方によって、芽生え

る好奇心に差が生じると考えられますが、その対処の仕方によって、子供の心と知識の成長に大きな差が出ます。行動をじっくり見守り、「どうして？」の質問に対し、出来る限りの答えを準備してあげてください。「どうしても!」とか「うるさい!」とかは禁句です。完璧な答えなど誰にも出せません。わからなければ「どうしてだろうね?」で結構。そこで子供と寄り添い、共に考え、子供の好奇心が求めている答えを、一緒に探してあげて下さい。時間も忍耐も必要ですが、これは家庭でなければ出来ません。ご家族一人ひとりの時間と忍耐を持ち寄り、お子様にじっくり接して欲しいと思います。

就学前、家族に見守られ、心豊かに成長した子どもは、学校・地域から多くを吸収し、自ら考え自ら行動し、やがて大きくはばたくものと信じます。



### 友だちについて考えたこと

旭田小学校 5年 佐藤愛音

みなさんには、友だちはいますか。私は友だちがいっぱいいます。保育所の時の友だち、クラスの友だち、地区の友だちなどいっぱいいます。もちろん、たまにけんかすることもありますが、苦手だと思える人もいます。でも、私は、友だちって大切だと思ってるんです。みなさんは、友だちとけんかしたことはありませんか。きつとほとんどの人があるのではないかと思います。私もクラスの友だちとけんかしたことがあります。ある友だちとこしょこしょ話をしている、別な友だちに悪口だとかん違いされてしまったのです。「教えてくれないならいいよ」と言われて、それから口をきかなくなってしまうました。私は、「別に悪口

も「こんにちは」と、あいさつをし、私たちが大きな声で「こんにちは」と元気にあいさつをしました。木道のあちらこちらで、互にあいさつをする声が聞こえました。出会った人の中には笑顔いっぱい、「みんなは、どの学校なの」「みんなは何年生なの」など、質問する人もいました。私は、初めて会った人にニコニコ顔で話しかけられ、とてもうれしくなりました。何だか、その人たちと前にも会ったことがあるような、親しみを感ずきました。また、その人たちと話している時は友達になつたような気になりました。

あいさつの大切さは、先生方や両親から教えられていましたが、尾瀬でのこうした経験で、改めて、あいさつをすることの楽しさ、大切さを強く感じました。 「読書っていいな。」そう思うようになったのは今から四カ月前です。それまでは字を読むのが面倒くさく本を読むことがきらいでした。もちろん読書タイムも読んだふりをしていたいくつな時間やいやでした。そんな時友達に読んでみるとおもしろいからという理由で無理やり、「かいつゾロリ」の本をおし付けられ手わたされました。面倒くさいと思いつつも読めると、いき

私は近ごろ、これまでより友だちが大切だと感じるようになりました。それは、友だちとは、ただいられるだけで楽しいし、ほっとできる気がついたので。お母さんとお母さんの友だちを見ていて、やっぱり友だちってすてきななあとはためて感じます。私も何十年たつても一緒に笑った友だちがほしいです。みなさんは、私のような考えをもったことはありますか。私にとつては、同じじクラスにいる人もみんな、大切な友だちです。私は一人一人の友だちを大切に、いっぱいいいつばい友だちを増やしていきます。そして強い強い絆をつくつていきたいです。



### 読書っていいな

江川小学校 5年 佐藤幸人

からです。実際に新しい本コーナーに本がならぶとすぐにみんなが借りて予約待ちになるほどです。そんな時ぼくはともうれしくなります。また、本の整理をしていて読みたい本が五つもふえました。二つ目の目的は、本のおもしろさをみんなに伝えることでした。本をじっくり読んでみると本の中の世界に入ることが出来ます。きれいな森のけしきを思いうかべたり、暗い地下室の中を想像してこわがったりできます。本を読んで頭の中でけしきを想像することは自由です。登場人

物の気持ちを考えていっしょにうれしくなったり、なきたくなったりするの自由です。ドキドキしたりワクワクしたり心があたたかくなります。だから委員会で読み聞かせをする時にはゆつくりと読んでみんなが想像したり、ワクワクしたりする時間が持てるようにと考えています。ぼくは、読み聞かせの練習をするために家で妹に本を読んであげていました。読んでいくうちに妹の目が真剣に絵を見ているのがわかります。こわい場面では目をつぶったり、耳をふさいだりしています。そんな時は

本を楽しんでいるんだなと思い、うれしく思います。読み終ると、「もつと読んで。」と何度も言われます。「また明日。」と言うと、次の日、わすれずに本を持って「読んで。」とせがんでくれます。妹も本のおもしろさを知って好きになったことが分かりました。だから学校でも、一人でも多くの友だちが本を好きになれるように手伝ってあげたいと強く思っています。

伝記や科学の本、物語の本などいろいろな本を読むようになりました。ちよつとしたきつかけで本が好きになるかもしれない。だから、みなさんもまずは本を手にとつて「ページめくってみませんか。もしかしたら最高におもしろい出会いがあるかもしれない。ぼくは、五、六年生という二年間で、三百つ本を読みたいと思つています。みなさんも本を好きになつてドキドキわくわくして心をおどらせてみませんか。そして、感想を交流しあつてみませんか。読書って本当にいいものですよ。



### 尾瀬で学んだあいさつの大切さ

榎原小学校 5年 渡部愛佳

四年生の時、総合学習で尾瀬に行つてきました。初めて見る尾瀬は、空気も湿原も山々もとてもきれいでした。尾瀬は、自然環境を守るために働いている人たち、尾瀬が大好きで楽しみに訪れる人たちの努力によって、ごみはほとんどありませんでした。私たちが行った時は、ちやうど小さくてかわいい黄色い花の「リュウキンカ」がたくさん咲いていて、とてもきれいでした。私が尾瀬の活動で一番楽しみにしていたのは、湿原の木道を歩くことでした。尾瀬の高山植物は、とてもめずらしい貴重な植物なので、足で踏んだりしないように、長い木道を歩きました。

「朝の読書を始めてください。」この放送委員会の朝の放送の合図で江川小学校の朝の読書タイムが始まります。江川小学校には朝の八時から八時十五分までの十五分間は、全校生が読書にひたる時間があります。ぼくは、この時間がいつも待ちどおしくてたまりません。この時間のためにぼくは前の日から何の本を読もうかとかどこまで本の続きを読めるかなどと考えています。この考えている時間もわくわくして、

「読書っていいな。」そう思うようになったのは今から四カ月前です。それまでは字を読むのが面倒くさく本を読むことがきらいでした。もちろん読書タイムも読んだふりをしていたいくつな時間やいやでした。そんな時友達に読んでみるとおもしろいからという理由で無理やり、「かいつゾロリ」の本をおし付けられ手わたされました。面倒くさいと思いつつも読めると、いき

が好きになりました。今まで読書タイムをむだにすごしてしまつたことをとても後悔しました。 五年生になつて図書委員会に入りました。それには二つの目的があったからです。一つ目の目的は、新しく入った本をすぐに知ること、本の整理をしながら次に読みたい本をさがすことでした。新しい本が入つた時には真つ先にクラスのみんなに教えています。そうするとみんなも本に興味をもつてくれると思つた



### チームワーク & スマイル

旭田小学校 6年 渡部美憂

「みなさん、毎日の生活は楽しいですか。そう聞かれたら、私は迷わず「はい」と答えたいと思います。確かに、学校の勉強はどんどんレベルが上がりにくくなっているし、家に帰ってからの勉強は、続けていくのが大変だし、水泳や陸上、塾がある時には、疲れてしまい、何度も心が折れそうになります。すごくやりたくない時もあります。みなさんも、きつとそうなのではないかと思えます。それに、意見の食い違いやちよつとしたことで、友達との関係がぎくしゃくし、何か嫌だなあ、どうにかしたいなあと思つて悩んでしまうこともあるでしょう。そんな時つて、自分ではあまり悪いとは思つていなくても、いらしたり、ついにはきつい言葉で、友達や家族を傷つれたりしてしまつこと

があるのではないのでしょうか。以前の私ならそうでした。でも、そんな自分を見つめ直す転機がありました。今年四月、母の妹の赤ちゃんが、しばらくの間、家に泊まることになったのです。私が勉強をしていると、一歳にも満たないその赤ちゃんが、大きい声で泣いたり、髪の毛を引つ張つたりするし、テレビを見ている時や食事の時もうるさいので、いらいらし過ぎる我慢できなくなり、怒つてしまったことがあつたのです。そんな私を見かけて、おばあちゃんがこう話してくれたのです。「もう少しで帰るから怒らないでね。みんな家族なんですよ。美憂の担任の先生がいつも言つているように、家でもチームワークが大切なんだよ。だから、嫌な時や

私たちが教室には、学級目標の「チームワーク&スマイル」が拡大写真とともに飾られています。とても大きなもので、達成し甲斐があるなあと考え、意識して行動するようにしています。そこには、友達との信頼関

係が必要です。みんなを気づかう心配よりも大切です。運動会や修学旅行、学級の諸問題の話し合いの時には、熱くなり、意見が合わず、嫌な思いをしたこともあつたけれど、一人一人が、「チームワーク&スマイル」を履行しようとしたからであり、それがあつたからこそ、みんなが一つになり、笑顔でふり返られる成果が出せたんだと思ひます。これからも私は、クラスのために、今の自分には何ができるのかを考え、みんなを信頼し助け合い、切磋琢磨し合いながら、元気いっぱい毎日を楽しんでいきたいと思ひます。今私は、この学級のみんなと一緒に素敵な学校生活を送ることができて、本当に幸せです。



### 私の自慢のひいじいちゃん

江川小学校 6年 五十嵐瑠奈

関係なく優しくできて、人を楽しませることが大好きだつたんだなあと思ひました。私は去年総合学習で福祉について勉強しました。高齢者の疑似体験をしたり、実際にデイサービスに何回か行つてリハビリのお手伝いをしたり、お話をしたりしました。デイサービスのお年寄りの方はみんな私たちが来るのを楽しみにしてくれていました。リハビリも私たちが来る日はいつもよりがんばつていたそうです。デイサービスの職員の方に、私たちの笑顔が一番の薬になるんだよと教えていただき、とてもうれしくなりました。私たちもデイサービスに行つてくるとお年寄りの方々から元気をもらつてくるようなきがしました。だから私はそのと

きの経験を家でも生かして、ひいじいちゃんや立ち上がる時には私から手を貸してあげたり、歩くときには手をつないであげたりしています。また、ひいじいちゃんによくしゃべるので、私も負けずに話をし、ひいじいちゃんに聞く力をつけてもらうようにしています。ある日、ひいじいちゃんに聞いてみました。「じいちゃん、長生きのひいじいちゃん、するとじいちゃんは「わかんねなあ」と笑つていましたが、「瑠奈の笑顔、瑠奈の元気、瑠奈の助け、瑠奈の心づかい、瑠奈とおしゃべり」と、答えてくれました。私は食べ物とか飲み物とかかなと思つていたので、自分の力がひいじいちゃんの長生きの助けになつていたんだ、じいちゃんに

とつて私は大事な存在なんだと、とてもうれしくなりました。そしてふたりで顔を見合せて大笑いしました。そういえば、前に授業中私の笑いが止まらなくなつてしまったとき、クラスの男の子に、「瑠奈さんの家の人がいつも笑つてるよね」と、言われたことがあります。きつと私が笑うと止まらなくなるのは、ひいじいちゃんの遺伝子なんだね。私はひいじいちゃんにありがとうと、言葉では伝えきれないほど感謝しています。だから私が大人になつて車の運転ができるようになったら、ひいじいちゃんを病院に連れて行つてあげたり、ご飯を食べべに連れて行つてあげたりしたいです。日本の最高齢者は現在百十五歳だそうで

す。ひいじいちゃんにはその記録を塗り替えて世界一長生きしてほしいです。みなさん、私たちもいつか必ず年をとります。だから、身近にいるお年寄りにちよつとした手を差し伸べることで自分がそのお年寄りの方の長生きのお手伝いをする事ができると思ひます。大丈夫ですか、大丈夫ですよ、と声をかけること、ゆつくり話してあげると、「一緒に笑うこと、どれも簡単なことです。そして、みんなで支え合い、うちのひいじいちゃんのように、下郷町に百歳以上の元気なおじいちゃんおばあちゃん、その人たちの生きがいになるような子供たちがもつとも増えたらいいなと思ひます。



### ふるさとを愛する

檜原小学校 6年 稲本椰子

「みなさんにとつて、ふるさとつて何ですか。」 六年生になつたばかりの四月、今年初めての総合的な学習の時間のことです。そこで、担任の川俣先生に最初にたずねられたのがこの質問でした。学年のみんなは「いいところ」「自然がいっぱいある」「観光地がある」などと答えました。先生もそれを認めてくださいました。 私もこれまでの生活で「ふるさと」という言葉について深く考えたことはありませんでした。「ふるさと」とは、ただ自分の家があり、他の地域と比べて自然がたふさんある所だということにしか思つていませんでした。 その後の先生の話から、六年生の総合的な学習の時間のテーマは「地域の文化を広げよう」だということがわかりました。このテーマを達成するために、単にふるさと下郷を「知る」ことだけでなく、次のようなことも必要だとわかりました。それ

は、下郷と他の地域とを「比べる」こと。そして何よりも、ふるさとを「愛すること」です。 愛するなんて、先生の言うことは大げさだと思つていましたが、その後のわずか二十分で私の中に今までなかつた感覚が生まれてきました。先生は、東日本大震災の影響でめちやめちやになつた地域や、放射線の影響で人が住むことができなかった地域の写真を見せてくださいました。同じような光景は今までテレビや新聞で何度も見てはいましたが、改めて、「大変なことがおこつたんだな。ここで暮らしていた人々は、ふるさとを壊されたり、住めなくなつたりされてしまつたんだな。そう考へると、ふるさとで生活できるといふのは、当たり前なことではないんだな。」と感じました。 次に先生は私たちにこうたずねました。「同じ県内なのに、私たちは前とほぼ同じ状態のふるさとで生活す

ることができています。そんな私たちがふるさとを愛するためにできることつて何だろう。」私たちは考えました。下郷町のパンフレットを作るといいだろう。ふるさとの新聞やポスターをかくて配るといいだろう。そんな意見も出されました。しかし、よく考へてみるとそれは大人がすでにやっていることです。子どもが同じことをやつてもかなうはずがありません。「子どもだからこそできることつて何だろう。」そう考えたとき、一つの考へが私の頭の中に浮かびました。「あつ、歌だ。歌を歌う。」周りの友だちも首を縦にふつてくれていました。そこで先生はすかさず、私たちがある曲を聞かせてくださいました。 「助け合える友との思ひ出を いつまでも大切にしたい 進む道も夢の地図もそれはふるさと」

こうして私たちの合唱練習が始まりました。水泳の練習や修学旅行の準備の中で、練習をがんばつていきます。八月には合唱のコンクールにも参加する予定です。みんなを感動させられるような歌に仕上げたいきます。 ふるさとを愛するという感覚はまだよくはわかりませんが、一年間を通じて感じていければなあと思つています。そして、ふるさとを誇りに思い、すてきな合唱を創り上げることに向けて、三十四名の仲間ががんばります。ふるさとをみんなが愛せるように。

みなさん、日本は今、高齢化社会といわれていますが、私たちの住む下郷町で、百歳を超えている人は何人いるか知っていますか。実は二人だけなのだそうです。そしてそのひとりが、私のひいじいちゃんです。 ひいじいちゃんは今年の四月一日に百歳になりました。食べることとお酒が大好きで何でも自分でできます。畑に行くのには自転車に乗つて行きます。ちよつとした坂道も平気です。私が学校から帰る時間に、

なると、バス停まで迎えに来てくれます。バスからひいじいちゃんの姿が見るととても安心します。 私が小さいときの遊び相手はいつもひいじいちゃんでした。おかあさんや家の人たちが仕事でいなくても、ひいじいちゃんがいればたのびたてきみしくありませんでした。お部屋さんで「こをしたり、いつしよに歌を歌つたりしました。ひいじいちゃんいつも大笑いしながら遊んでいたのを思ひ出します。、

私が少し大きくなってからは、戦争の話をとくさん聞きました。その話の中で、とても心に残つているのは、ひいじいちゃんが日本兵としてインドネシアにいつていたときの話です。ひいじいちゃんは現地の人たちにやさしく接してあげていたので、「日本兵は気持ちがいい。」と言つてインドネシアの人は親切にしてくれたそうです。そして食料も水も貴重だつたのに、ひいじいちゃんのために自分たちの食料や水を少しだけ、

わけてくれたそうです。そしてひいじいちゃんには私くらいの子供たちと仲良く遊んだり日本の歌を覚えてあげたりしていたそうです。だから、ひいじいちゃんが日本に帰るといったときには、子供たちに「帰らないでほしい。」と泣かれたそうです。きつとひいじいちゃんの心には今でもそのときの子供たちの顔が忘れられないのではないかなと思ひました。ひいじいちゃん昔から、誰にでもどこでも、日本人、外国人へ

# 町民会議 だより

平成26年  
135号

2014/1/1  
No.135  
●編集・発行  
下郷町青少年育成町民会議  
(町教育委員会事務局内)  
〒969-5345  
福島県南会津郡下郷町大字  
塩生字大石 1000  
TEL.0241-69-1168  
FAX.0241-69-1167

## 賀正

今年(甲午)年です。

せっかくなので干支にちなんだ豆知識を紹介します。

馬は「物事が“うま”いく」「幸運が駆け込んでくる」などといわれる縁起のいい動物です。

午年は西暦を12で割って10が余る年が午の年となります。午の月は旧暦5月。午の刻は、昼の12時及びその前後2時間をいいます。そのため、昼の12時を「正午」といい、「午前」「午後」という言葉がうまれたようです。「午」を「馬」とした由来については諸説あるようです。是非調べてみてください。

## 2 町民スキー教室 / 町民スキー大会

### ○スキー教室

【日 時】第1回スキー教室

平成26年1月4日(土)  
午後1時30分～3時30分  
第2回スキー教室

平成26年1月13日(月)  
午後1時30分～3時30分

【会 場】会津高原だいくらスキー場

【対象者】小学生から一般

【費 用】傷害保険料1人200円  
(未加入者のみ)

※リフト代金は自己負担となります。

### ○スキー大会

【日 時】平成25年2月23日(日)  
受付 午前8時30分

【会 場】会津高原だいくらスキー場

※ 詳細につきましては町教育委員会までお問い合わせください。



## 1 冬期休業について

町内各小中学校の児童・生徒が、冬期休業に入ります。

期間/平成25年12月21日(土)～

平成26年1月7日(火)

冬休みは正月の伝統行事等も行われ、子ども達とふれあう絶好の機会です。家族の一員として家の仕事に参加してもらうなど【家族・地域ぐるみ】で青少年健全育成の推進と、子どもとの交流にご協力願います。

### ～楽しく過ごすために～

- ・屋根からの落雪・落水による事故を防ぐため、軒下を歩かない。
- ・道路脇の雪山の上を歩いたり、雪山から飛び出さない。
- ・河川や池などに近寄らない。
- ・外出のときは「行き先」「帰宅時間」を家族に伝える。(暗くなる前に必ず帰る。)
- ・外から帰ったら必ず「うがい」「手洗い」をする。(インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症予防)
- ・火遊びは絶対にしない。人気のない所へは一人で行かない。

## 3 注意!! ケータイ・スマートフォン ～LINE(ライン)について～

LINE(ライン)は友達や家族など身近な人と楽しくメールや電話をすることを目的としたアプリです。しかし、使い方を間違えると大きな事件やトラブルなどにまきこまれてしまうことがあります。まずは、大人自身が使い方やネットマナーに関する正しい知識を得ることが大切です。

### 青少年のトラブル事例

- ・見ず知らずの人と連絡を取ってしまい、実際に会うことで事件や事故などのトラブルに巻き込まれる。
- ・個人情報を知ってしまったことによって、自宅に押しかけられたり、いたずら電話がきたり、個人情報を握られてお金を要求される。
- ・トークやタイムラインに顔写真や他人に知られたくないことを掲載されて晒し者にされる(いじめ)。

青少年が事件に巻き込まれないために家庭でも、使い方について子どもたちと十分話し合ってください。